

渦巻銀河の世界へようこそ

宇宙には、渦を巻いた天体がいろいろあります。「渦巻銀河」や「棒渦巻銀河」と呼ばれる銀河も、渦巻き模様が特徴的な天体です。銀河の渦巻き模様には個性があり、写真を見るだけでも楽しいものです。

私たちがいる「天の川銀河」も棒渦巻銀河の一つですが、なぜ私たちの天の川銀河は渦を巻いているのでしょうか？渦に沿ってモノが吸い込まれているわけでも、吹き出しているわけでもありません。では、銀河の渦の秘密とは、いったい何でしょう。

近年の観測によって100億年前には現在のような大きさ、形状の銀河がすでにあったことが分かっています。そして、130億年以上前、宇宙が誕生して数億年後の生まれたばかりの銀河は、小さくていびつな形をしているものが多いことも分かってきました。

ある時点で、何らかの原因によって、銀河は渦を巻くようです。そして、数10億年後、天の川銀河は今とは全く違う形になっていると考えられています。銀河たちのダイナミックな営みを見ていきましょう。

2020年5月、コロナ禍が猛威を振るって休館になった「銀河うずうず」がバージョンアップして、再投影です。

企画：石坂 千春（学芸員）





KONICA MINOLTA

私たちは「宇宙」を作っている会社です。

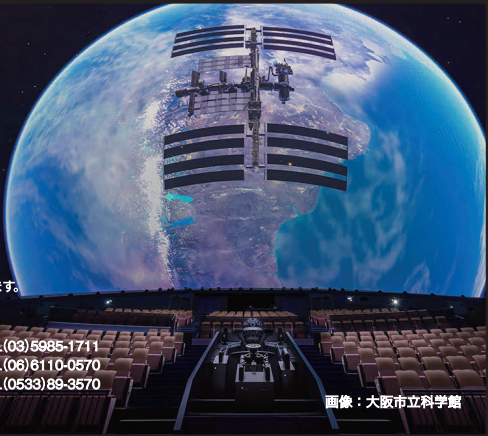
— プラネタリウム生誕100周年 —

最新の光学・デジタル プラネタリウム機器の開発・製造から、独自の番組企画・制作・運営ノウハウに至るまで、プラネタリウムという“スペース”の可能性を追求し続けてまいります。

コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

本社・東京事業所 〒170-8630 東京都豊島区東池袋3-1-3 TEL (03) 5985-1711
大阪事業所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 TEL (06) 6110-0570
東海事業所 〒442-8558 愛知県豊川市金屋西町1-8 TEL (0533) 89-3570
URL: <http://www.konicaminolta.jp/planetarium/>

画像：大阪市立科学館



ブラックホールを見た日～人類100年の挑戦～

「ブラックホールを見た日～人類100年の挑戦～」が再登場！

2019年4月、イベント・ホライズン・テレスコープEHTがおとめ座の巨大楕円銀河M87の中心ブラックホールの直接撮影に成功したというニュースが世界同時に発表され、衝撃を与えました。そして2022年5月には、私たちが住んでいる天の川銀河の中心ブラックホール「いて座A*」の画像化にも、ついに成功したと発表しています。

EHTは200名を超える世界中の科学者たちが、手を携えて挑戦した国際プロジェクトです（月刊うちゅう2021年3月号のメイン記事）。

光を出さず、真っ黒で見えないはずのブラックホールをどうやって撮影したのか。

ブラックホールを直接撮影するため世界8つの電波望遠鏡を連動させ、地球規模の仮想的なアンテナを構築する。成功に至るまでの道のりを、EHT日本チームを率いた国立天文台の本間希樹先生監修のもと、迫力の映像で振り返ります。

ナレーションは「進撃の巨人」エレン・イェーガー役等、数多くのキャラクターを演じていらっしゃる梶裕貴さんです。

さわやかな声があなたをブラックホールの真の姿に誘います。

※2025年3月に続いて4度目の登場です。

企画・制作：石坂 千春（学芸員）・飯山 青海（学芸員）



©ブラックホールを見た日製作委員会

100
年の永遠
—プラネタリウムが映す星空への想い—

INTERNATIONAL TELESCOPE NETWORK PRESENTS THE EHT PROJECT
A JOINT EFFORT OF GERMAN OPTICALLY PLANETARIUMS E.V. etc.

全天周デジタル配給作品
「100年の永遠」

星の輝きで伝えたいことがある
五藤光学研究所

100th
ANNIVERSARY
since 1926